

4 攻めの農林水産業育成プログラム

概要

本県を代表する農産物である桃やぶどうのマーケティング^{*63}やブランディング^{*64}に取り組んだ結果、首都圏市場での販売やアジア地域への輸出は大きく伸びています。

一方で、高齢化に伴って担い手が減少し、耕作放棄地が増加するなど、本県の農林水産業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、経済の国際化の進展による影響も懸念されます。

このため、消費者のニーズに対応した高品質な農林水産物のブランド確立に向けた取組を一層推進するとともに、担い手の確保・育成や農業生産基盤の整備など、供給体制の強化を図ることにより、儲かる産業としての農林水産業の確立を目指します。

生き生き指標

| | | |
|----------------------------------------|-------------------------|-----------------------|
| ◎農林水産業産出額 | 1,373億円/年 ▶ | 1,485億円/年 |
| ○県産果物の販売金額等(首都圏・海外) | | |
| 首都圏販売金額 (東京都中央卸売市場における県産桃、ぶどうの販売金額) | 14億円/年 ▶ | 17億円/年 |
| 輸出金額(県産桃、ぶどうの輸出金額) | 5億円/年 ▶ | 7億円/年 |
| ○水稲作付面積10ha以上の経営体数 | 146経営体 ▶ | 220経営体 |
| ○新規就農者数 | 132人/年 ▶ | 600人(4年間累計) |
| ○県産材の生産量 | 411千m ³ /年 ▶ | 530千m ³ /年 |
| ○シカ・イノシシの捕獲数 | | |
| シカ | 1.1万頭/年 ▶ | 5.8万頭(4年間累計) |
| イノシシ | 1.9万頭/年 ▶ | 6.7万頭(4年間累計) |

重点施策

マーケティングの強化とブランディングの推進

首都圏や関西圏をメイン市場とし、県産農林水産物の販売力を高めるため、マーケットイン^{*65}の視点に立った商品づくり、フードバリューチェーン^{*66}等の取組を強化するとともに、ニーズに応じて安定的に供給できる生産体制の強化を図ります。

また、本県の強みである最高品質の白桃やぶどう等のトップブランド化を進めるため、品質や商品としての魅力をより高める新技術の開発・普及に取り組むとともに、戦略的な情報発信やプロモーションを通じ、県産農林水産物のブランディングを推進します。

海外でのブランド確立による輸出促進

国際的に競争力のある白桃やぶどう等を軸に世界に通じる「岡山ブランド」の確立を目指し、台湾、香港を重点市場としてニーズに対応した宣伝・販売活動を展開するとともに、シンガポール等への輸出ルートの開拓や販売拠点づくりを進め、商業ベースでの輸出定着を図ります。

また、岡山米やおかやま和牛肉、乳製品、製材品等の高品質な農林水産物のアジア地域での市場開拓を進めます。

白桃の供給力の強化

本県の特産品である白桃は、生産者の高齢化や担い手不足等により生産量の減少が懸念される状況にある一方、出荷量の増大と長期安定出荷が求められており、晩生品種の導入による栽培面積の拡大などにより、供給力の強化に取り組みます。

次代を担う力強い担い手の育成

新規就農者の確保・育成の取組に加え、認定農業者や集落営農組織^{*67}の規模拡大や法人化、企業の参入を支援するとともに、新たな担い手育成プログラムを構築し、多様な担い手を育成します。

また、専門的技術を持つ優れた林業や漁業の人材育成を推進します。さらに、ハイブリッドメダカ生産団地^{*68}の整備を進めるとともに、農業生産基盤の整備や農地中間管理事業等を活用した農地の集積・集約化を進めます。

県産材の需要拡大と林業収益性向上対策の推進

中高層建築物への新たな需要が期待されるCLT等新製品の利用促進や品質・性能に優れた県産乾燥材の国内外への需要拡大を図るとともに、県産材の東京オリンピック・パラリンピック関連施設への利用を視野に森林認証^{*69}の普及と供給体制の整備を進めます。

また、森林経営の集約化を図り、利用期を迎えつつある人工林の伐採、再造林、効率的な作業システムの構築や未利用間伐材等のエネルギー利用を通じて、収益性の高い魅力ある林業を実現します。

農作物等の鳥獣被害防止対策の推進

野生鳥獣による農林水産被害の防止を図るため、市町村等と連携し、侵入防止柵の設置などの防護対策や捕獲対策、捕獲獣の利活用対策を推進するとともに、推進リーダーや狩猟者等の確保・育成を図ります。

また、カワウによる食害について、防護対策と捕獲対策を中心に、漁業関係者等が行う活動を支援するとともに、広域的な取組についての体制整備を進めます。

推進施策

環境保全型農林水産業の推進

本県独自で認定している化学肥料・農薬を一切使わない「おかやま有機無農薬農産物」や、化学肥料・農薬を低減する特別栽培農産物などを「おかやま e 農産物^{*70}」として、その拡大に取り組むとともに、農産物の安全性確保につながるGAP手法^{*71}の導入促進、化学肥料・農薬の適正使用の徹底等を通じて、環境保全型の農林水産業を推進します。

畜産物の生産振興

家畜改良や飼養管理技術の高度化により生産性の向上を図るとともに、地域の飼料資源の活用や生産基盤の強化によるコスト低減に積極的に取り組み、収益性の高い畜産業を実現します。

また、家畜伝染病の発生防止や衛生管理指導により、安全で高品質な畜産物の安定供給に努めます。

水産物の生産振興

水産資源を増やすため、漁業者、NPO等と連携した藻場の造成、海底の底質改善、稚魚の放流、栄養塩^{*72}の管理技術の開発を進めるほか、持続的な資源利用や経営対策を通じて力強い漁船漁業の確立を目指します。

また、漁場環境データの情報発信、カキの衛生対策の充実、ノリの色落ち対策等を進めることにより、安全で高品質な製品の生産体制を構築し、水産物の安定供給に努めます。

6次産業化と農商工連携の推進

農林漁業者による生産・加工・販売を通じ、優れた経営感覚を有する経営体を育成するとともに、農山漁村に由来する地域資源の活用、高付加価値化を図り、生産者の所得向上と雇用の創出による農山漁村の活性化を推進します。このため、意欲ある農林漁業者への個別指導による商品開発や販路開拓、新たな販売方法の導入を促進するとともに、農林漁業者と他産業との連携による新たなアグリビジネスを支援します。

産地を支える保全対策の推進

農業用ダムや取水堰、かんがい施設や農道橋など、基幹的な土地改良施設の機能が有効に発揮されるよう、計画的な長寿命化対策を進めるとともに、地域の実情に応じた農地や農業用施設の再編整備を行い、産地の持続的発展に向けた効果的な保全対策を進めます。

関係部局

農林水産部、環境文化部

